

「気候」を捉えなおす

2024年度は参加者から要望が多かった「気候」を講座のテーマとしました。気候変動に対する社会や生物の対策・適応についての講義とともに、そもそも私たち人間にとって「気候」とはどのような存在であったのかを教育、歴史、文学から振り返ります。「気候」について多角的に捉えなおす講座をお届けします。

■時間／14:00～16:00 ■定員／各回100人
■会場／あざれあ(静岡県男女共同参画センター)2F大会議室
※4回以上ご参加の方には修了証を発行します。
※本講座は「しずおか県民カレッジ」対象講座です。

参加
無料

第1回 7月6日(土)

気候を学ぶ ドイツの事例を踏まえて

山本 隆太(静岡大学地域創造教育センター准教授)

皆さんは気候の学習というのを思い出しますか？本講座では地理の授業で学んだ気候区分や風土を振り返りつつ、環境教育先進国ドイツの気候学習を参照しながら、気候について学びなおします。

第2回 8月3日(土)

気候変動とそれへの適応

川原 博満(静岡大学客員教授/環境省関東地方環境事務所地域適応推進専門官)

かつて「地球温暖化」といわれた気候変動は、今や「気候危機」「地球沸騰化」といわれるまで深刻化しています。本講座では、気候危機の現状を確認しつつ、それが豪雨・洪水、生活、食料生産、生態系等に及ぼす影響とそれへの適応策の必要性について説明します。

第3回 8月24日(土)

野生生物から見た気候変動

伊藤 舜(静岡大学理学部助教)

気候変動は私たちの生活に深刻な影響を及ぼしています。野生生物も例外ではなく、気候変動の影響を受けてきました。本講座では、静岡県での事例を含めつつ、過去と現在進行形の気候変動と生物の関係を紹介し、将来的に懸念される影響を考えます。

第4回 9月7日(土)

中世ヨーロッパにおける気候と社会変動

藤井 真生(静岡大学人文社会科学部教授)

温暖化が続いた中世ヨーロッパは、14世紀から小氷期に突入します。これに連動して飢饉やペストの流行が見られ、封建社会は大きな変動を迫られました。本講座では、気候や自然災害に関する記録の残り方にも目を向けながら、気候と社会の関係を考えます。

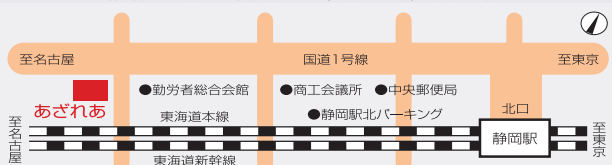
第5回 9月28日(土)

気候文学の可能性

小二田 誠二(静岡大学人文社会科学部教授)

ここ数年「環境人文学」に関する書籍を多く見かけます。講義前半で、その背景を概説します。後半では、気候・自然・風土・環境といったものが、主に日本文学の中でどのように扱われてきて、これからどうなるのかを考えます。

[住所]〒422-8063 静岡市駿河区馬淵1丁目17-1
[アクセス]JR静岡駅から国道1号線沿いに西(安倍川の方)へ徒歩9分



※会場の駐車場はご利用いただけません。公共交通機関をご利用ください。

申込方法 申込先

いずれかの方法でお申込みください(先着順)。

WEB <https://www.lc.shizuoka.ac.jp/event004002.html>
※右記QRコードからもお申込みいただけます。

メール kaiho@suml.cii.shizuoka.ac.jp

ハガキ 〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
静岡大学地域創造教育センター読売市民講座担当



お問い合わせ

静岡大学地域創造教育センター
地域人材育成・プロジェクト部門
TEL 054-238-4817 [平日9:30~16:00]
メール:kaiho@suml.cii.shizuoka.ac.jp

静大 生涯学習

検索

※郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、メールアドレス、参加回を明記してください。
※定員に達するなどお申込みをお受けできない場合のみご連絡いたします。
※ご提供いただいた個人情報は本講座の運営および公開講座に関する情報の送付のみに使用させていただきます。

主催／静岡大学・読売新聞静岡支局